

相可高等学校いじめ防止基本方針

1 はじめに

学校内外のいじめの防止に取り組むとともに、生徒が傍観者になることなく、いじめの問題を主体的に考え、行動することを目指すため、三重県いじめ防止基本方針等の趣旨を踏まえ、いじめの防止等のための対策の基本となる事項を定めた本方針を策定する。

2 いじめの定義

「いじめ」とは、生徒に対して、当該生徒と一定の人的関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

3 いじめの防止等に関する基本的な考え方

本校では、すべての生徒および教職員・保護者が「いじめはどの学校でも、どのクラスでも、どの生徒にも起こり得るものである」という理解・認識を持ち、いじめ防止等のための対策を以下の基本理念の下に定める。

- (1) いじめ防止等のため、日頃から教育活動全体を通じて、一人ひとりの違いを理解し、自らを大切に思う気持ちや他者を思いやる気持ちを育むと共に、いじめの防止に向けた主体的かつ自主的な活動を支援する。
- (2) いじめは、被害側の生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であるとの認識に立ち、「いじめを許さない」学校づくりに取り組む。
- (3) いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、対象生徒を守り通すとともに、関係生徒に対しては当該生徒の人格の成長を旨として、教育的配慮のもと、適切かつ毅然とした指導を行う。
- (4) 学校内外を問わず、いじめ防止が図られるよう、学校・家庭・地域が連携・協力し、健やかな成長と安心して生活できる環境づくりに努める。

4 いじめ防止等の対策のための組織とその役割

(1) いじめ防止委員会

校長、教頭、主幹教諭、生徒指導主事、生徒指導担当、教育相談担当、学年主任、各学科生徒指導担当

※その他必要に応じて、該当担任や部活動指導に関わる教職員、人権教育担当、心理や福祉の専門家であるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、弁護士、医師、教員・警察経験者などの外部専門家等を加えるものとする。

※教育相談担当が不在の場合は養護教諭が代替する。

(2) いじめ防止委員会の役割

- ア いじめ防止基本方針の策定と定期的な見直し、校内外への発信。
- イ いじめ防止対策年間計画の策定と取組評価。
- ウ 教育相談およびいじめアンケートの実施と結果集約。
- エ いじめの認知および、解消に必要と考えられる調査や対応。

5 いじめ防止等の指導体制

教職員の言動が生徒に大きな影響を与えることを認識し、学校が組織的にいじめ防止に取り

組み、いじめ防止等に関する措置を実効的に行うため、日常の教育相談体制や生徒指導体制を別に定める。

別紙1 校内指導体制

また、教職員が生徒一人ひとりの小さな変化を見逃さず、早期にいじめを発見するためのチェックリストを別に定める。

別紙 2-1気づきリスト(学校用)、2-2~5気づきリスト(保護者用)

6 未然防止および早期発見の取組

いじめ防止の観点から、学校教育活動全体を通じた多様な取組や、いじめアンケートなど早期発見のための取組、教職員の資質向上を図るための研修などを計画的・体系的に行い、保護者や地域への啓発及び連携を図っていくため、年間の指導計画を別に定める。

別紙3 年間指導計画

7 いじめ事案への対応

いじめの疑いに関する情報を把握した場合には、いじめ防止委員会を中核として情報の収集や集約、記録、情報共有、事実確認および認知を行い、解消に向けて迅速に対応する。発生から解消に至るまでの組織的対応については別に定める。

別紙4 組織的対応

8 重大事態への対応

(1) 重大事態の定義

「重大事態」とは、

ア いじめにより本校生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認める場合を指す。具体的には、生徒が自殺を企図した場合、身体に重大な傷害を負った場合、金品等に重大な被害を被った場合、精神性の疾患を発症した場合などがある。

イ いじめにより本校生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認める場合を指す。「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とするが、一定期間連続して欠席しているような場合には、欠席日数が30日に満たなくとも、適切に調査を行ったうえで、校長が判断する。

ウ 生徒や保護者から、いじめられて重大事態に至ったという申立てがあったときは、重大事態が発生したものとして、調査や報告等に当たる。

(2) 重大事態への対応

校長が重大事態と判断した場合には、直ちに県教育委員会に報告するとともに、県教育委員会の支援のもと、相可高校いじめ防止委員会を母体とした組織で調査を行い、事態の解決にあたる。

なお、事案によっては、県教育委員会が設置する重大事態調査のための組織に協力し、事態の解決に向けて対応する。

9 その他留意事項

本方針については、学校や生徒の実情に合わせて定期的に見直しを行うほか、家庭や地域との連携を図るため、学校関係者評価委員会やPTA総会、保護者会等あらゆる機会を利用して保護者や地域に情報発信を図るものとする。

なお、見直しにあたっては、学校全体でいじめ防止に取り組むという観点や、学校・家庭・地

域が連携していじめ防止に取り組んでいくという観点から、地域や保護者、生徒の意見を積極的に取り入れるよう留意する。

また、本方針の内容については、学校のホームページへの掲載その他の方法により、保護者や地域住民が容易に確認できるような措置を講ずるとともに、入学時や各学期の開始時等に生徒、保護者等に説明する。

令和4年4月 制 定

令和4年9月 一部改訂

令和8年3月 一部改訂